

第8回大分大学九州大学合同研修会報告書

平成29年3月18日

於：B-CON PLAZA、別府亀の井ホテル

—目次—

P.2 プログラム

P.4 参加者一覧

P.5 研修会の概要

第8回 大分大学九州大学合同研修会

平成29年3月18日 土曜日

大分県別府市山の手町12番1号 B-CON PLAZA

大分県別府市中央町5-17 別府亀の井ホテル

プログラム

-前半の部 B-CON PLAZA にて-

1. 開会の挨拶 15:00-15:10

大分大学医学部腫瘍・血液内科学講座 教授 白尾 國昭

2. 新入医局員の紹介、ゲスト紹介 15:10-15:40

3. 第一部 15:40-16:40 各20分

司会 九州大学病院別府病院 内科 田村 真吾

演者：九州大学病院 血液・腫瘍・心血管内科 吉弘 知恭

「免疫チェックポイント阻害薬により間質性肺炎を発症した2例」

演者：宇佐中央内科病院 院長 徳光 陽一郎

「地方小規模病院における腫瘍内科開業医の役割（10年間の歩み）」

司会：大分大学医学部附属病院腫瘍内科 西川 和男

演者：大分大学医学部附属病院腫瘍内科 稲墻 崇先

「肝転移を有する重複癌の1例」

-----休憩 16:40-16:50-----

4. 第二部 16:50-17:50 各30分

司会 済生会福岡総合病院 腫瘍内科 小田 尚伸

演者：九州がんセンター 消化管・腫瘍内科 薦田 正人

「消化器がんにおけるプレシジョン・メディシン」

司会 大分大学医学部附属病院腫瘍内科 大津 智

演者：大分大学医学部附属病院腫瘍内科 西川 和男

「原発不明癌の多施設共同後方視的研究に関する
プレゼンテーションと質疑応答」

-----別府亀の井ホテルに移動-----

-後半の部 別府亀の井ホテルにて-

5. 全体討議 18:30-20:30

今後の本合同研修会のあり方について
がん薬物療法の展望について
腫瘍内科医の今後の連携について

6. まとめ、閉会の挨拶 20:30-20:40

九州大学大学院医学研究院九州連携臨床腫瘍学講座 教授 馬場 英司



参加者一覧

白尾 国昭	大分大学医学部附属病院	腫瘍内科
西川 和男	大分大学医学部附属病院	腫瘍内科
大津 智	大分大学医学部附属病院	腫瘍内科
小森 梓	大分大学医学部附属病院	腫瘍内科
稲墻 崇	大分大学医学部附属病院	腫瘍内科
久松 靖史	大分大学医学部附属病院	腫瘍内科
天田 耕平	大分大学医学部附属病院	薬剤部
廣田 昇馬	大分大学医学部医学科	5年
山口 統子	大分大学医学部医学科	4年
渡邊 浩一郎	鶴見病院	腫瘍内科
馬場 英司	九州大学大学院	九州連携臨床腫瘍学講座
草場 仁志	九州大学病院	血液・腫瘍・心血管内科
有山 寛	九州大学病院	血液・腫瘍・心血管内科
伊東 守	九州大学病院	血液・腫瘍・心血管内科
中野 倫孝	九州大学病院	血液・腫瘍・心血管内科
稲富 享子	九州大学病院	血液・腫瘍・心血管内科
奥村 祐太	九州大学病院	血液・腫瘍・心血管内科
吉弘 知恭	九州大学病院	血液・腫瘍・心血管内科
二尾 健太	九州大学病院	血液・腫瘍・心血管内科
鶴田 展大	九州大学病院	血液・腫瘍・心血管内科
花村 文康	九州大学病院	血液・腫瘍・心血管内科
田村 真吾	九州大学病院別府病院	内科
坂本 典彦	九州大学病院	初期研修医
三ツ木 健二	浜の町病院	腫瘍内科
江崎 泰斗	九州がんセンター	消化管・腫瘍内科
薦田 正人	九州がんセンター	消化管・腫瘍内科
相川 智美	九州がんセンター	消化管・腫瘍内科
篠原 雄大	九州がんセンター	消化管・腫瘍内科
牧山 明資	JCHO 九州病院	血液・腫瘍内科
有水 耕平	JCHO 九州病院	血液・腫瘍内科
徳光 陽一郎	宇佐中央内科病院	
川越 志穂	九州医療センター	腫瘍内科
梶谷 竜裕	九州医療センター	腫瘍内科
小田 尚伸	済生会福岡総合病院	腫瘍内科

研修会の概要

大分大学医学部附属病院腫瘍内科と九州大学病院血液・腫瘍・心血管内科の合同で開催されてきた本研修会も今回で第8回を迎え、九州がんプロ養成基盤推進プランの教員、大学院生が多数出席して参りました。回を重ねるごとに臨床腫瘍学に関わる多様な演題が発表され、今回も活発な討論が交わされました。

九州大学病院血液・腫瘍・心血管内科 吉弘 知恭先生からは抗PD-1抗体ペムブロリズマブを使用した治験で重篤な間質性肺炎を生じた症例の発表がありました。従来の化学療法で観察されてきた有害事象とは性質の異なる免疫関連有害事象

(immuno-related Adverse Event: irAE) に対して、今後有害事象発症のリスクをどのように評価していくべきか、irAE発生時の対応方法に関して両大学の取り組みなどが討論されました。

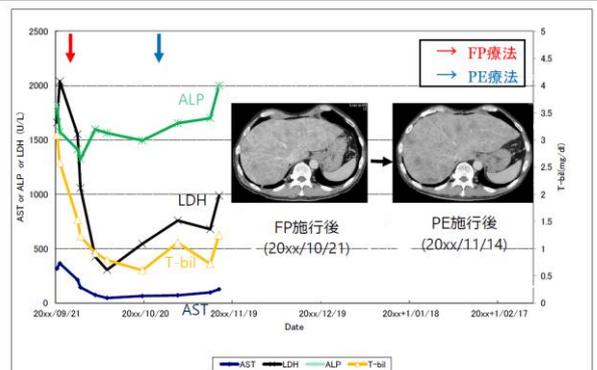
間質性肺疾患：発現時の対策（当院での推奨）



宇佐中央内科病院で地域の腫瘍内科医として活躍されている徳光陽一郎先生からは、病床48床の地方小規模病院で行われている地域に根ざした腫瘍内科としての取り組みが発表されました。徳光先生は初期の大分大学九州大学合同研修会でも一般的な開業医として腫瘍内科を立ち上げた際の経験を発表されましたが、そこから10年を迎えた今回の研修会では新たに始めた活動を中心にお話くださいました。がん診療拠点病院の少ない宇佐市において宇佐中央内科病院では多様な癌種の化学療法、緩和治療を行っています。その一方で病院ではなく自宅で終末期医療を受けたいという希望や、がんの治療過程で自宅での生活が困難になっている方がいることが明らかになってきました。そこで宇佐中央内科病院では新たに在宅緩和ケアを開始したり、がん疾患患者療養施設「りんどうの里」を開設したりと、試行錯誤しながら急性期病床以外のがん治療の場を開拓しています。地域が求める臨床腫瘍内科医の一つの形として、発表後も多くの質問、コメントが寄せられました。

大分大学医学部附属病院腫瘍内科 稲垣 崇先生からは食道低分化扁平上皮がん肝転移として治療開始したが、後に追加の病理診断で食道神経内分泌癌と診断された症例について発表されました。治療方針をどのように選択していくべきか、途中で参加者の意見を問う形で進行されました。治療方針選択の判断とその根拠について様々な意見が交わされ、時折遭遇するケース

治療経過



でありながら主治医によって判断が分かれる興味深い演題でした。

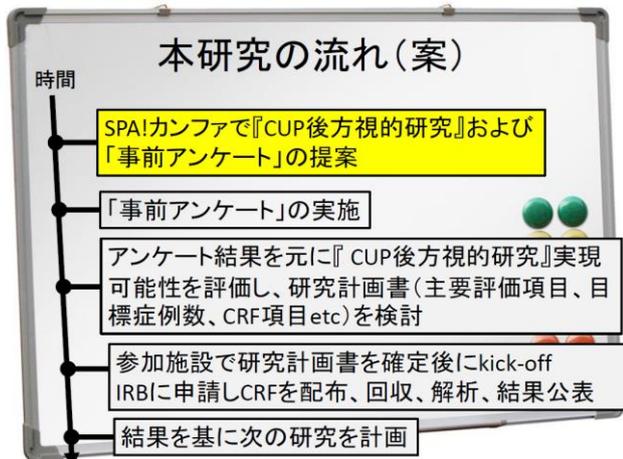
九州がんセンター 消化管・腫瘍内科 薦田 正人先生は、九州がんセンターが参加している消化器癌ゲノム解析プロジェクトであるGI-SCREENの取り組みと、がんに対するプレジジョンメディシンのあり方についてお話されました。「精密医療」と訳されることの多い「プレジジョンメディシン」ですが、がん治療の場では遺伝子解析の技術を用いて薬剤の効果予測を行い、最適な医療を患者に届けることが目指されています。九州がんセンター消化管・腫瘍内科が参加しているGI-SCREEN-Japanでは次世代シーケンサーで多数の癌関連遺伝子を解析し、大腸がんなど単一のがん種であっても遺伝子異常に従ってさらに細分化することで、最適な治療薬・診断薬の開発をすることを目的の一つとして掲げています。これまで同じ種類のがんと思われてきた患者集団が、実は多様な小集団の集合であったことが明らかになる一方で、それぞれに対する適切な治療開発の難しさが課題となっています。

Precision medicine : 精密医療

- 個別化医療：Personalized Medicineの実現にはコストがかかる。
- プレジジョン・メディシンでは遺伝子解析の技術で薬剤の効果予測をする。
- 効果のある患者を絞り込む。
- 薬剤の適正使用により医療費抑制を期待。
- オバマ大統領の演説 2015年1月「プレジジョン・メディシンは医療に大躍進をもたらすでしょう」



President Obama speaks on the Precision Medicine initiative
Youtube The Obama White Houseチャンネル



大分大学医学部附属病院腫瘍内科 西川 和男先生からは本研修会の参加者である九州大学と大分大学とで共同で臨床研究を行おうという提言がありました。両大学で診療している癌種にはそれぞれ偏りがあるため、西川先生は両大学が等しく診療している「原発不明がん」をテーマとした後ろ向きの観察研究を提案されました。その進め方や、今後臨床研究を進めていく上で想定される問題点について全体でディスカッションを行いました。

場所を亀の井ホテルに移してからの全体討議、総

合討論でも先の演題に関する考察や、それぞれの大学での取り組みなどが活発に議論され、両大学の親交もさらに深めることができました。我々は普段、福岡と大分とでそれぞれ離れた場所で腫瘍内科として活動していますが、このような研修会を通じてより協調して診療や研究に取り組み、やがては九州一円の臨床腫瘍学を盛り上げるきっかけになればと思います。

九州大学がんプロ大学院生 伊東 守
九州大学がんプロ教員 馬場英司

